

1 単元名 資料を効果的に使って、意見文を書こう

2 学習材名 『固有種が教えてくれること』

『情報 統計資料の読み方』

『グラフや表を用いて書こう』（光村五年）

3 単元について

子どもたちは、説明的文章の学習において、4年生では、段落相互の関係、筆者の考えと理由・事例との関係について考えたり、要約したりする学習、5年生の1学期には事例・理由や論の展開に着目して要旨をとらえる学習をしてきた。本単元では、資料の効果を考えながら読み、さらに目的に合った資料を選んだ資料と文章を対応させて書く活動を行う。

本単元は、「読むこと」の説明的な文章教材『固有種が教えてくれること』と、「書くこと」の教材『グラフや表を用いて書こう』で構成される複合単元である。多様な資料を用いて自分の考えに説得力をもたせる説明の工夫について考えたのち、自分が生きている社会に目を向け、自分の考えや目的意識に合った資料を選択し、「読むこと」の学習をいかして文章を書くことに取り組みせたい。

本単元に関わる主たる指導事項は、読むこと「ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つれたり、論の進め方について考えたりすること。」書くこと「エ 引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。」である。

指導にあたっては以下の2点に留意する。

手立て1に関わって

- ・単元の初めに意見文の手本を示すことで、資料を用いて書くことを単元のゴールとすることを共有する。
- ・「友だちの意見を聞いて、自分の考えがはっきりしたり変わったりしたことはどこか」など、振り返りの視点を示し、振り返ることで自分の考えの広がりや深まりを自覚する。

手立て2に関わって

- ・自分たちで話し合いながら、納得のいく考えを見つけれられるように、児童の意向を踏まえたグループを作る。
- ・文章の内容に合う資料を選ぶ活動で、対話的活動を取り入れ、資料を使う意図や効果について多様な視点で考えられるようにする。

4 単元の目標

- 情報と情報との関連付けのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。〔知〕（2）イ
- ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つれたり、論の進め方について考えたりすることができる。〔思〕C（1）ウ
- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思〕B（1）エ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（2）イ	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つれたり、論の進め方について考えたりしている。C（1）ウ ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。B（1）エ	① 進んで文章と図表などを結び付けて読み、学習課題に沿って、図表を使って自分の考えを書こうとする。

6 単元の指導計画（全 11 時間扱い）

時	学習活動	◆研究に関わる手だて ・指導上の留意点	評価【 】 [方法]
1	○学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。本文を音読し、感想をもつ。	◆『社会が暮らしやすい方向に向かっているか』について資料を用いて自分の意見を述べることを学習のゴールであることを共有し、教師が書いた紹介文のモデルを示すことで、見通しをもつことができるようにする。 (手立て1)	
資料を効果的に使って、意見文を書こう。			
2	○文章の構成を押さえて論の進め方を確認し、文章の内容の大体をとらえる。	・様々な話題が扱われる文章のため、筆者の考えと結び付けながら、論の進め方を意識させて読む。	【知①】原因と結果や段落同士の内容を関係つけて考えたり、資料と文を線でつないだりするなど、語句と語句の関係を理解し使っているか確認する。 [発言・記述] 【思①】文章と図表などを結び付け、資料を使う意図や効果について自分の考えをもっているか確認する。 [発言・記述]
3	○「中」の大きな流れをとらえる。	・これまでに学んだ説明文の構成を手がかりにしてキーワードや筆者の主張を見つけるように助言する。	
4 本時	○文章と資料を結び付け、資料の効果について考える。	◆資料と文章を結びつける活動を通して、「資料と文があっているか」や「本当に必要か」、「資料がないとどうか」など様々な視点を与えることで資料の効果を考えることができるようにする。(手立て2)	
5	○「統計資料の読み方」を理解し、参考にして資料を読む際に気をつけることを確認する。	・資料の読み方に関わる疑問を解決することで「統計資料の読み方」につなげる。	
6	○資料から読み取れることと、それをを用いていることの効果をまとめ、考えを伝え合う。	・資料の内容やその資料になぜ着目したかを話題にする。 ・互いに質問したり感想を述べさせたりする。	
7	○これからの社会について自分の考えをもち、資料を探して、適切なグラフや表を選ぶ。	・各々が自分の主張に適した資料を選択できるようにする。	【思②】図表やグラフなどを自分のねらいに合わせて選び、適切に用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているか確認する。 [記述]
8 9	○資料から分かる事実と自分の考えを書き出し、文章構成を考える。 ○図表やグラフを用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫し、下書きをまとめる。	◆まとめたものはペアで読み合うことで、伝える目的や自分の考えと合った資料か検討できるようにする。 (手立て2) ・自分の目的に合った本文と図表やグラフの結び付きになるように気を付けさせる。	
10	○下書きを推敲し、文章を完成させる。	・ここまで確認した書き表し方を参照し、推敲する際の観点を共有させる。	【主】『固有種が教えてくれること』で学んだ、筆者の説明の工夫をいかして、資料を用いた意見文を進んで書こうとしているか確認する。 [観察・記述]
11	○完成した文章を読み合い、感想を伝え合う。	◆グループで交流し、振り返ることによって自分の考えが深まったり、広がったりしたか感じるができるようにする。 (手立て1)	

7 本時の指導

(1) 目標

目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

(2) 本時の評価と具体的評価規準

目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりする。

具体的な子どもの姿	Bに至らせるための支援
文章と図表などを結び付け、資料を使う意図や効果について自分の考えをもっている。	資料の位置をずらしたり、資料を付け足したりして考えさせる。

(3) 展開

	学習活動 ・ 児童の反応 〈目的〉児童と共有する対話活動の目的	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点【評価】〔評価方法〕
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。	・学習計画を基に既習を確認し、本時のゴールを確認する。
	資料のよさを考えよう。	
展開 35分	3 どんな資料が提示されているか確認し、どの段落でどの資料を提示するのが効果的か確認しながら、交流する。 〈目的：交流〉 ・資料の名前と、この段落のこの言葉が同じだ。 ・この言葉はたくさんの段落に出てくるぞ。一体どの資料を使って説明しようとしているのかな。 4 資料の効果を考える。〈目的：広がり〉 ・資料の位置が違えば文章と合わない。 ・資料があるとイメージしやすい。 ・具体的に数字の変化が分かる。 ・数字があると、納得しやすい。 ・関連した資料が2つあると比較しやすい。 ・資料があることで筆者の言いたいことがよく分かる。 5 話し合った効果を整理し、まとめる。	・前時に引いた線をもとに、どの資料がどの段落で提示されているかを確認させる。 ◆納得のいく考えを見つけるために交流が必要か、必要ならどんな交流のしかたをするか考えさせる。(ペア、グループ) (手だて2) ◆対話的活動によって、資料の効果について考えさせる。(ペア、グループ) (手だて2) ・考える手助けとして、p. 146 $\square 2$ を参考にさせる。 ・資料の効果を考えさせるために、資料の位置をずらしたり、資料を付け足したりする。 【思】文章と図表などを結び付け、資料を使う意図や効果についての考えをもっているか確認する。〔発言・記述〕
	資料を使うことで、分かりやすくなるというよさがある。	
終末 5分	6 学習の振り返りをする。	◆学びの広がりや深まりを感じることができるよう、「振り返りの視点」(友達の意見を聞いて、自分の考えがはっきりしたり変わったりしたこと)を与える。(手だて1) ・単元のゴールに設定した「資料を用いて意見文を書く」ことにかすことを確認する。

〔期待する振り返りの例〕

- ・〇〇さんの考えを聞いて、資料と文章の結び付け方が分かった。
- ・資料は、文章を分かりやすくしたり、読み手に納得させたりするのに効果があることが分かった。
- ・何を使えたいかによって、使う資料が違うので、目的に合った資料を使いたい。

(4) 板書計画

